
臨時赤潮情報(赤潮警報続報No. 3)

鹿児島県水産技術開発センター
平成17年8月11日

八代海赤潮警報続報No. 3

[1] 8月10日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

八代海南部の沖合調査では、全調査点でシャトネラ アンティーカが確認されました。沿岸部については、東町脇崎沖で本種が最高142cells/ml確認され、その他の沿岸部についても最低致死濃度の30~50cells/mlを上回る細胞数が確認されました。

また、東町脇崎沖では、コックロディニウム ポリクリコイデスが最高1,500cells/ml確認され、本種による着色域も確認されました。本種については、沖合調査でも数カ所にて4~18cells/ml確認されました。

(2) 海況

表層水温は調査海域で26.1~29.6℃、塩分は31.6~32.6で水温・塩分ともに同年同時期よりやや高め、透明度は同年同時期並みとなっています。

水温：平均 27.8℃ (27.2℃)

塩分：平均 32.2 (31.5)

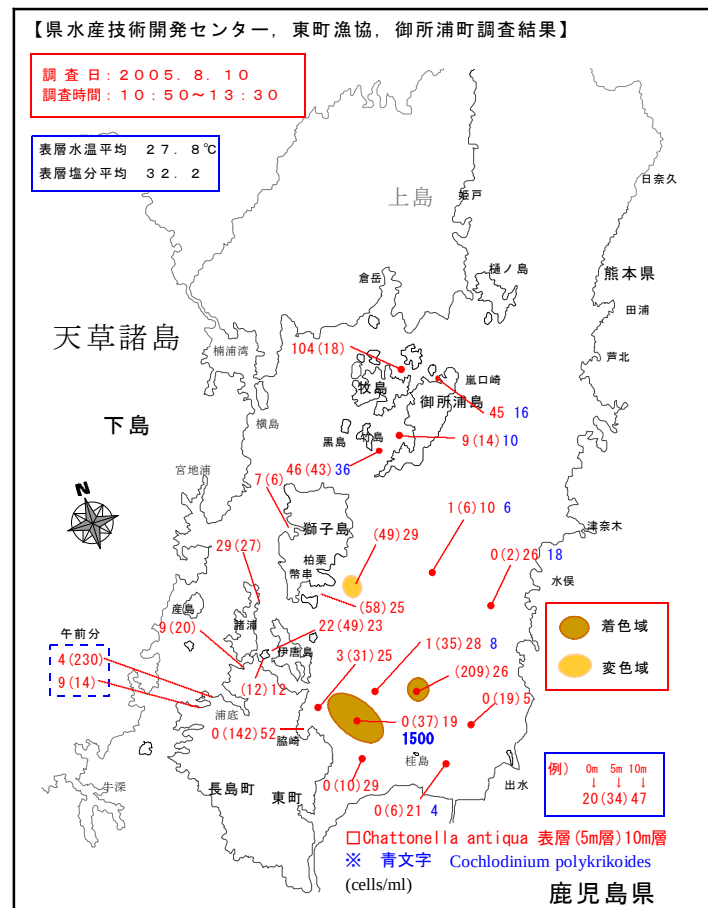
透明度：平均 8.8m (8.0m)

() はH元~H16年8月の平均値 (同平年値)

[2] 今後の赤潮発生の予想

シャトネラ アンティーカについては八代海全域において、細胞数の多い状況が続いており、風や潮流などにより集積と散在を繰り返していると思われます。条件が重なれば数百細胞の非常に濃い水塊を形成しているようです。今後もこのような状況がしばらくは続くと思われるので、引き続き厳重な警戒が必要です。

コックロディニウム ポリクリコイデスについても、多くの調査点で確認され脇崎沖では着色域も確認されました。本種は高水温 (27~28℃)・高塩分 (32~33) を好むとされており、八代海については本種の最適水温・塩分にあることから、今後、本種が増加することが考えられますので、シャトネラ アンティーカと同様に警戒が必要です。特に、今週末は小潮にあたり、有害プランクトンの滞留が考えられますので、潮通しの悪い漁場は更なる警戒が必要です。



赤潮情報(携帯用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑(パソコン用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>

赤潮情報QRコード